

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」袋井校			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 21日 ～ 2025年 12月 17日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数)	43
○従業者評価実施期間	2025年 12月 12日 ～ 2025年 12月 18日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員が専門性を活かして個別に児の表れに対応することができる。	利用児ごとに個室を用意し集中して課題を行うことができる環境を整備することで、集団活動では力を発揮することができる。また、支援時のお楽しみや毎月の小集団活動ウィークで指導員とともに他児と関わる経験を積むことでコミュニケーション能力の向上を促すことができる。	他校舎から、専門職の職員を講師として招き、職員のスキルアップを図り支援を充実させたい。
2	送迎を家族へお願いしているため、保護者支援が常にある。	来所された際に保護者へ声掛けして近況の把握に努めるとともに保護者への助言や面談、学校との会議を設定することができる。	保護者会への参加を呼びかけを期間を長く、丁寧に行うことで、保護者の参加をより促すことができるよう働きかけた。
3	個別支援と小集団活動の両方を行うことができる。	個別支援で利用児の力を発揮する機会を持ち、指導員との信頼関係を築くことができる。また、同時刻の利用児同士で小集団活動に参加し、交流の幅を広げることで集団活動への抵抗感を軽減することができる。	施設の職員だけでなく、外部講師の指示を聞く機会を持ち、いろいろな大人の話を聞けるように働きかけたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小集団活動以上の人数での活動が難しい。	個別支援を前提として、利用児の曜日・時間を配分しているため、職員数以上の利用を呼びかけることが難しい。	近隣の「きらり」校舎と合同にて活動を行うことで、多くの同時刻利用児を交流することができる。
2	外活動を行うことが難しい。	近隣の公園まで移動して戸外活動を行うことも検討できるが、当日の天候・利用児の健康状態・道中の安全への配慮等、必要なことが多く、また時間の制約もあり実現が難しい。	利用時間の延長や、外活動を事前に計画へ組み込むことで、保護者からの了解を得たり職員間の動線の確認を行ったりすることができる。
3	調理等の食育を行うことが難しい。	事業所に調理場所の確保や道具・用具の準備が無いこと、食品衛生責任者が不在であるなどの問題点がある。	野菜を使用した制作等を取り入れているが、今後事業所で使用できる調理場所、用具の選定を行い少人数で行えるよう検討したい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」袋井校

公表日 2026年 2月 14日

利用児童数 44

回収数 43

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	40	3	0	0	個室や広いスペースなどがあり体を動かすスペースがあつて良い。	ありがとうございます。個別で活動に集中できる空間と複数児で粗大運動を行える空間を設定しています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	43	0	0	0	1人に1人ついてくれるので、とても良いと思います。	ありがとうございます。個別での対応のための職員の人員配置と同時刻利用児の人数を調整して支援しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	40	3	0	0	入口など段差があるところにスロープがあり、配慮されていると思う。	ありがとうございます。事業所内はバリアフリーで、トイレの広さや表示等の配慮もしています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	42	1	0	0	個室があるためみんなと遊べない時などの対応が出来て良いと思います。	ありがとうございます。利用児の状況により個室で対応したり空間を共有したりと柔軟に使い分けをしています。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	41	2	0	0		活動の狙いや利用児の特性に対する対応など、丁寧な説明で保護者の理解を深めていただけるよう努めます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	42	1	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	43	0	0	0	面談の時などに困った事などが相談出来、それをふまえたうえで計画を作成してもらっている。	ありがとうございます。保護者の相談は随時受付、計画作成に反映させています。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	42	1	0	0		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	41	2	0	0		個別支援計画は利用児の支援ファイルにも共有し、職員の支援準備に参照できるようにしています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	38	5	0	0	季節の行事などを取り入れながら色々なプログラムがあり、とても楽しめている。	ありがとうございます。月替わり工作や小集団活動など季節感を重視した活動ができるよう工夫しています。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	15	6	8	14		他の組織と交流する機会を持っていますが他地区の児と同時刻に交流することはできています。
保護者 への 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	43	0	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	43	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	31	6	1	5		11月に掛川の2校舎と合同で保護者会を行いました。26年2月には校舎で保護者会を開催のためご参加ください。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	40	3	0	0	困った事など、すぐに相談出来るため、共通理解できていると思います。	ありがとうございます。常に相談支援ができ、事業所全体で共有できるよう努めています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	39	4	0	0		年2回のモニタリングで聞き取りや助言を行い困りごと等は面談でご相談を承ります。お気軽に声掛けください。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	41	2	0	0		利用児の特性の理解とそれに伴った適切な対応を事業所全体で心がけています。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17	12	4	9		きょうだい児への交流の機会はまだ設けていません。11月に掛川の2校舎と合同で保護者会を行いました。26年2月には校舎で保護者会を開催のためご参加ください。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	40	3	0	0		相談窓口は職員誰でもお伝えしています。児発管の対応をご希望の場合もお声掛けいただけるようお伝えしています。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	41	2	0	0		毎回の支援後の丁寧な申し送りや玄関への情報の掲示等、視覚・聴覚へ働きかけて情報を伝達しています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	42	1	0	0		HPへブログ・保護者へLINE・インスタグラムと月に数回は支援の様子がわかるように情報発信しています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	41	1	0	1		書類等の受け渡しは確認を確実にし、事務所内の個人ファイルやPC画面は他者の目に触れない配慮をします。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	39	3	0	1		契約時の説明や玄関での掲示・閲覧をしていますが更に周知を図るため丁寧な説明と訓練の実施を行っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	40	1	0	2		毎月内容を変え利用児も参加して訓練を行い、その様子を校舎で掲示・ブログ・保護者LINEでお伝えしています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	39	2	0	2		安全計画は玄関のファイルにて周知・閲覧を声掛けし、安全の確保を行った上で支援をしています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	39	3	0	1		軽微なけがでもすぐに対応を行い保護者の方へお伝えしています。職員で情報共有して再発防止に努めています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	43	0	0	0		ありがとうございます。今後も安心できる居場所作りに努めます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	40	3	0	0	毎回楽しく通っています。とても楽しみにしています。時と場合による。小集団は苦手なので少々嫌になることがあったり2日通所で疲れることもある。	ありがとうございます。個別支援と小集団活動で社会性の向上を目指し活動の事前の丁寧な説明を働きかけます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	43	0	0	0		ありがとうございます。今後も満足していただける支援を提供できるよう努力します。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」袋井校		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用者が多い時間帯は、ねらいを設定して合同支援で交流したり広い空間を仕切るなどの工夫をしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		職員の休みに対して対応できるような体制になっているため、安心して働ける。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		玄関に待合スペースを設定したことで、申し送り時に落ち着いて待てる児が増えた。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		掃除が出来る日とできない日があったが現在は空き枠で清掃できている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		利用児の状況に応じて、小集団活動の週であっても個別の対応できるように個室を用意して対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		業務の改善については、職員全員が意見を言える環境作りに配慮して校舎運営を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者の評価結果を職員全体で把握・検討し業務改善に繋げている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		何かを決める時に管理者からどう思うか職員の意見の聞き取りがある。職員の評価結果を業務改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者による外部評価については全社で検討中。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年間を通じて、ZOOMにて研修を行う他に地域での研修等にも積極的に参加している。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		適切に支援プログラムを作成し、利用者にも分かるように提示している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		各利用者のアセスメントを必ず参照して個別支援計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		モニタリングの仕方など1人1人の職員が考えを伝えられるような環境だと感じる。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画作成にあたり、指導員モニタリングから原案の確認、会議の開催と職員が関わって共有し、支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		放デイはアセスメントをあまり活用できていないと感じる。	アセスメントは利用児の支援ファイルにも情報共有しているのでモニタリング時にアセスメントを振り返るような体制とする。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個別支援計画に「本人支援（5領域）」「家族支援」「移行支援」「地域支援」のそれぞれの「課題」「目標」「支援内容」が明記され、専門的支援実施計画で更に具体的な支援内容が設定され支援が行われている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		個別支援をチームで行っているため、活動プログラムについてもチーム内で検討して変更・継続等を判断して支援している。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	支援時の様子を検討し、課題の継続が変更かを相談している。時にあえて一部を固定化して行う時もある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	利用児の状況に応じて内容や時間を調節して行うことができている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	イベント時は更に担当児の特性や目標を話し合っており対応している。打ち合わせで個別支援の内容の確認はしていない。	打ち合わせや振り返り時に個別支援の内容の確認・継続・変更についても共有し検討する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	時短勤務で打ち合わせを毎回行うことはできていないが、必要に応じて都度情報共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	各支援に関して記録をPCにてクラウド保存し職員は互いに記録を精査して次の支援を準備するため検証・改善を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	指導員モニタリング、保護者モニタリングを2回/年行い、内容を共有して支援計画を見直している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	自立支援と日常生活の充実のための活動・創作活動・地域交流の機会の提供・余暇の提供を適宜組み合わせ支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	発信が苦手な児に対して2択を提示し選んでもらうなど、自己決定の機会を設定している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	サービス担当者会議や関係機関連携会議には児発管と職員が同席して情報の共有に努めている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	役井市や掛川市の協力医との連携は必要に応じて行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	送迎サービスは行っていない。学校行事は利用児や保護者から情報を得ている。小学校へ利用児の名簿を提出している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	就学前からの利用児は園訪問にて情報共有できている。児発事業所から情報をいただくこともある。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	対象者なし	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	市の早期療育支援センターと見学等で利用児の情報共有したり研修に参加したりしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	地域の他の子どもと活動する機会は設けていないが、他校の利用児同士が同時刻利用で交流している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	児発管が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	フィードバック時に保護者が話しやすいよう努めている。必要に応じて時間や空間を分けることで聞きやすい環境を設定している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	児発管が面談等で家族の対応に対し助言を行い保護者会での情報提供、発研の講演会等の情報を玄関へ掲示している。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に丁寧な説明と質問を受け付け、また事業所玄関に閲覧ファイルを作成して設置している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	個別支援計画を作成する際には保護者へ丁寧な説明とともに内容へ追加や変更希望を必ず確認して本計画を作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	個別支援計画を作成する際には保護者へ丁寧な説明と内容へ追加や変更希望を必ず確認し同意のサインをいただいている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		来所時に保護者から子育ての悩みや相談等を児発管が受け面談を設定したり不安感の解消や手助け対応を助言する機会が多い。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		11月に掛川校・掛川第2校と合同で保護者会を行った。2月にも保護者会を予定。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情はほぼ無いが、相談や心配事などは児発管が保護者から聞き取り、職員全体で把握・対応を検討している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		HPへブログ・保護者へLINE・インスタグラムと月に数回は支援の様子がわかるように情報発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報は事務所内で鍵付きの書庫へ保管し、また事務所内で利用児名が見える状態で放置しない等を申し合わせている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		利用児の特性に配慮し、支援プログラムを絵付きで準備したり、事業所内の説明等も絵を付けたりと配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	市警察署のスクールサポーターに講師をお願いして不審者対応について研修を行った。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを策定し、職員全員に周知し事業所玄関にて閲覧できるようにし、発生を想定した訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎月、いろいろな災害を想定し利用児も参加して定期的に避難訓練を行っている。消防署での訓練にも職員が参加している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		利用開始時と毎年度ごとに基本情報を保護者へ記入をお願いし、その中で服薬や転換発作等の状況を確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事の提供は行っていない。 小麦粉粘土・牛乳パックの使用に注意している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、必要な研修や訓練を受け、また安全管理が充分にされた空間で支援を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		災害時の対応については契約時に別紙で対応を保護者へ説明し、保管をお願いしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を作成し、上長へ報告するとともに再発防止について事業所内で検討し改善している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止のため、毎月職員全員でチェックシートにて振り返りを行い、研修に参加して常に適切な対応を行うようにしている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		やむを得ず身体拘束を行う場合、事業所全体でどのような場合にどう行うかを決定し保護者へ事前に説明、了解を得ている。	